

令和7年度後期学校評価(教職員アンケート)

質問項目	前期		後期		肯定値の差	考察
	4+3	2+1	4+3	2+1		
①いじめや不登校の起こりにくい、心理的安全性の高い集団づくりに組織的に対応している。	100	0	100	0	0	今後も学校全体で組織的に対応するよう一人一人が意識して行動する。
②特別支援部を中心に、全教職員で特別な配慮を要する児童や不登校傾向のある児童の支援に組織的に対応している。	100	0	100	0	0	特別支援部を中心に全教職員で対応することができた。生活指導夕会などを通して、児童への具体的な手立てを考え、共通理解を図っていききたい。
③「児童の主体性の育成」について、当事者意識をもって積極的に研究している。	100	0	100	0	0	「児童の主体性」について一人一人が当事者意識して研究に取り組んでいる。
④児童自ら学習を進める学習時間を計画通り実施し、教員の役割を理解することができた。	91	9	86	14	-5	後期は行事が続いたこともあって、計画通りにいかなかった部分があったと推測する。
⑤研究を通して、自己の見取りや評価の仕方が向上した。	85	15	90	10	5	研究を通して、見取りや評価についての理解が深まったと考えられる。
⑥異学年交流の時間は子供に任せて活動させることができた。	96	4	100	0	4	後期は子供たちに任せて活動することができた。
⑦家庭学習において、低・中・高の発達に応じて指導を行い、「自学」の習慣を身に付けさせることができた。	84	16	90	10	6	家庭学習について定着している児童もいるが、指導しても定着が難しい児童もいる。
⑧OPPシートを〇月から活用し、自らの資質向上を図ることができた。 4:5月から 3:6月から 2:7月から 1:9月から	76	24	80	20	4	OPPシートを用いた自己の資質向上に向けた取り組みが、徐々に定着してきたのではないかと。今後も取り組みを継続し、資質向上を高めていきたい。
⑨ゲストティーチャーを活用した授業実績及び予定の回数の合計(学年で) 4:3回以上 3:3回 2:2回 1:1回以下	79	21	90	10	11	後期は各学年が積極的にゲストティーチャーの学習を取り入れて活用している。
⑩150周年に絡む学習時間を実施した。 4:月に2回以上 3:月に1回 2:2か月に1回 1:0回	62	38	80	20	18	後期は、150周年行事に向けて学校全体で取り組んだ。
⑪当事者意識をもって、服務事故防止研修に参加している。	100	0	100	0	0	服務事故防止に関する意識は定着している。今後も服務事故0を目指していく。
⑫現在までの平均在勤時間は(週あたり)? 4:50時間未満 3:50時間以上55時間未満 2:55時間以上60時間未満 1:60時間以上	63	37	70	30	7	在勤時間への意識が高まり、実際の数値に繋がった。

「該当する」→4 「おおむね該当する」→3 あまり該当しない→2 「該当しない」→1